

## 2023 年度上野千鶴子基金助成金最終報告書

|           |                                |
|-----------|--------------------------------|
| 1. 助成対象事業 | 「女性学・ジェンダー研究の発展に資する調査、研究、出版」   |
| 2. 事業の区分  | 一般プロジェクト                       |
| 3. 氏名/団体名 | 孫 冬梅                           |
| 4. 事業名    | 在日中国人母親の育児に関する女性学的研究           |
| 5. 助成額    |                                |
| 6. 事業実施期間 | 2023 年 9 月 1 日～2024 年 8 月 31 日 |

### 7. 事業の目的

本研究の目的は、在日中国人母親の育児を行う際の実態や、子どもの成長に伴い言語教育における母親の葛藤を調査し、その困難感を乗り越えようとする挑戦のプロセスにいかなる女性の自主的な学びが生成したのかを検討することである。

### 8. 実施内容

本研究では、2023 年 9 月から 2024 年 8 月にかけて、宮城県華僑華人女性聯誼会および特定非営利活動法人岩手県国際教育支援協会が実施している子どもの支援・教育に関する事業に定期的に参加観察を行い、事業関係者のうち女性 9 名に対して半構造化インタビュー調査を実施した。当初、社会教育学会東北・北海道地区 6 月集会での発表を予定していたが、調査先の都合により学会前に調査を完了できなかったため、学会報告を見送ることとなった。また、上記 2 団体との共催で予定していた調査報告会は、先方の都合により東北大学大学院教育学研究科との共催に変更して実施しました。

### 9. 事業の成果と自己評価

本研究は、在日中国人母親の育児実態、言語教育における葛藤、そしてそれらの困難を乗り越えるプロセスにおける自主的な学びの生成を探ることを目的とした。2023 年 9 月から 2024 年 8 月にかけて行った参与観察と半構造化インタビュー調査を通じて、多くの有意義な成果が得られた。

まず、在日中国人母親たちが直面する主な課題が明らかになった。子どもの中国語能力の低下と母親自身の日本語習得の困難さという言語の問題、日本社会での生活と中国の価値観のバランスを取ることの難しさ、子どもの文化的アイデンティティ形成の課題など、文化的アイデンティティの維持に関する問題が浮き彫りになった。また、中国語教室の運営や子どもの日本の学校生活への適応支援における困難、文化の違いによる誤解や偏見への対応、コミュニティへの参加に関する不安など、教育や地域社会との関係構築に関する課題も明らかになった。さらに、災害時における言語の壁による情報アクセスの制限や、災害経験による長期的な心理的影響など、災害時の対応に関する課題も浮き彫りになった。

次に、母親たちがこれらの困難に立ち向かい、乗り越えようとしているプロセスが明らかになった。岩手県国際教育支援協会の設立と NPO 法人化、定期的な中国語教室の開催、多様な文化交流イベントの企画・運営など、自主的な組織づくりと活動展開が見られた。また、SNS を活用した情報共有と相互交流によるネットワーキングの構築、防災教育の実施など災害時の相互支援体制の構築にも取り組んでいた。

これらの活動を通じて、母親たちの間で様々な形態の自主的な学びが生成されていることも明らかになった。中国語教室や文化交流イベントの企画・運営を通じた組織運営スキルや異文化コミュニケーション能力の習得、日本語教育専門人材養成講座への参加による専門的スキルの獲得、震災経験や日々の活動を通じた実践的スキルの習得など、多様な学びの形態が観察された。さらに、SNS を活用した情報共有や相互交流は、母親たち同士の学び合いの場を創出し、集合知の蓄積につながっていた。

特筆すべきは、在日中国人母親たちの活動が、従来の「良妻賢母」イデオロギーを超えた新たな女性の社会参画モデルを提示していたことである。彼女たちの実践は、トランスナショナルな視点の導入、相互支援システムの構築、多文化共生社会への貢献という点で重要な意義を持っており、日本社会におけるジェンダー秩序の克服のためのヒントを提供していた。

本研究は、当初の目的である在日中国人母親の育児実態と自主的な学びの生成プロセスの解明において、一定の成果を上げることができたと自己評価する。特に、母親たちが直面する具体的な課題を明らかにし、それらに対する創造的な対応策を詳細に記述できたことは、本研究の大きな成果である。また、ジェンダー秩序への挑戦と多文化共生社会への貢献という観点から、在日中国人母親たちの活動の社会的意義を示すことができた点も評価できる。

一方で、調査対象者の数が限られていたことや、地域的な偏りがあったことは本研究の限界として認識している。今後は、より広範囲かつ多様な背景を持つ在日中国人母親たちを対象に調査を行い、より包括的な知見を得ることが課題である。また、当初予定していた学会報告が実現できなかったことは反省点である。今後は、研究計画をより慎重に立て、予期せぬ事態にも柔軟に対応できるよう努めたい。

総じて、本研究は在日中国人母親たちの実態と課題、そして彼女たちの自主的な学びと社会参画の可能性を示すことができた点で、意義ある成果を上げたと評価する。これらの知見は、今後の多文化共生社会における支援政策の立案や、トランスナショナルなフェミニズム研究の発展に寄与することが期待される。

## 10. 成果物

本基金に提出した成果物を以下に記載します。複数の項目がある場合は、種類ごとにまとめて記入しています。

1. 調査報告書 1部
2. 調査報告会関連資料
  - チラシ 1部
  - 写真 5枚（報告会の様子を撮影）
  - 申請者の報告書 1部
  - 申請者のプレゼンテーション資料（PowerPoint） 1部
  - ゲスト講師の講演資料（PowerPoint） 1部
3. 書籍リスト